

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2369 号

Switching from Twice-Daily Basal Insulin Injections to Once-Daily Insulin Degludec Injection for Basal-Bolus Insulin Regimen in Japanese Patients with Type 1 Diabetes:A Pilot Study

(基礎インスリン 1 日 2 回注射による強化インスリン療法中の日本人 1 型糖尿病におけるインスリンデグルデク 1 日 1 回注射へ切り替え効果の検討：予備研究)

登坂 祐佳 (とさか ゆか)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、インスリングルギンまたはインスリンデテミルによる基礎インスリン 2 回注射中の 1 型糖尿病患者を対象とし、作用時間が 42 時間をこえる新規基礎インスリンであるインスリンデグルデク 1 回注射への切り替えを検討した。変更前後の HbA1c の変化、Continuous glucose monitoring (CGM; iPro2) による血糖日内および日差変動、夜間低血糖の頻度を評価した。本研究では C-ペプチドを 0.015ng/ml まで測定可能な高感度測定法を用いたが大部分の症例で測定できなかった。このことから内因性インスリン分泌能が重度に低下しており、変更前に 2 回注射による基礎インスリン補充は適切であったと考えられた。インスリン製剤の変更により基礎インスリン量は 12 週後に血糖コントロールを悪化させずに約 20%減量となった。インスリンデグルデクは既存の基礎インスリンと比較して作用時間が長く安定した血糖降下作用を有していると考えられた。

本研究は基礎インスリン 2 回注射中の日本人 1 型糖尿病患者にインスリンデグルデク 1 回注射への切り替えを実施し、血糖コントロールを悪化させずに注射回数を減らすことが可能であったことを初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。